

130年の技術がひらく未来



2011年、私たちセイコーホールディングスグループは、
 おかげさまで創業130周年を迎えました。
 この130周年を未来への新たな飛躍の年にすべく、
 これからも確かな技術と品質で、お客さまに信頼される
 商品・サービスの提供を目指してまいります。

CONTENTS

トップメッセージ

- 2 トップメッセージ

社会性報告

- 15 地域・社会との共存
 17 災害支援
 18 社員・職場環境

特集「130年の技術がひらく未来」

- 3 130年の技術
 4 エコの技術
 5 信頼の技術
 7 新世代研究所
 8 社長座談会

環境報告

- 19 環境に配慮した商品
 20 循環型社会への貢献
 21 環境推進体制／節電対策／製品の安心・安全
 22 地球温暖化防止／環境会計

マネジメント

- 11 コーポレートガバナンス
 12 新たな付加価値の創出
 13 新しいセイコー
 14 第4次中期経営計画

[編集方針]

- 幅広い非財務情報の開示という視点から報告書のタイトルを「コーポレートレポート」としました。
- 130周年特集「130年の技術がひらく未来」を掲載しました。
- 読みやすくするために文章を簡潔にし、ビジュアルを大きくし内容を把握し易くしました。

[報告対象範囲と期間]

本レポートは、セイコーホールディングス(株)および事業会社[※]における2010年度(2010年4月1日から2011年3月31日まで)の活動を中心に報告しています。
[※]セイコーウオッチ(株)、セイコーインスツル(株)(SII)、セイコープレジジョン(株)、セイコーNPC(株)、セイコークロック(株)、セイコーオプティカルプロダクツ(株)、(株)和光、セイコータイムシステム(株)、セイコースポーツライフ(株)の各社です。

[参照ガイドライン]

GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン2006」、環境省「環境報告ガイドライン2007年版」「環境会計ガイドライン2007年版」、ISO26000、日本経団連「企業行動憲章」

[発行元およびお問い合わせ先]

セイコーホールディングス(株) 秘書・広報部
 〒105-8505 東京都港区虎ノ門2丁目8-10 レポート担当 Tel: 03-6739-3111(代表)
 E-mail: eco@seiko.co.jp

[発行] 2011年10月

[ウェブサイトとの連携について]

本レポートではセイコーホールディングス(株)および各事業会社のCSR活動のエッセンスをお伝えし、ウェブサイトにも同様の情報を掲載しています。
 掲載内容についての関連リンク先は、各ページ下の [Web](#) をご覧ください。

ウェブサイトの内容は随時改訂されます。
 最新情報は下記ウェブサイトをご覧ください。

[Web](http://www.seiko.co.jp/csr/report/) <http://www.seiko.co.jp/csr/report/>



FSC™ 認証紙の使用
 厳しい基準に従い、適切に管理された森林の木材を原料に含む紙を使用しました。



印刷インキは大気汚染の原因となるVOC(揮発性有機化合物)の発生を減らすため、植物性のインキを使用しています。



印刷工程では有害廃液を出さない水なし印刷を採用しています。

2011年セイコーは創業130周年を迎えました。
これまで支えてくださった皆さまに深く感謝申し上げます。

私の曾祖父であり、セイコーの創業者である服部金太郎が東京・京橋（現在の中央区銀座）の地に服部時計店を開いたのは、1881年（明治14年）のことでした。

「常に一步先を行く」という信条の通り、1913年国産初のウォッチであるローレルの発売にはじまり、1969年世界初のクォーツウォッチの開発など多くの「日本初・世界初」商品を開発・発売し、世の中に新たな価値を提供してまいりました。
セイコーの歴史は技術革新の連続であり、これからも弛まぬ努力を続けてまいります。

2011年3月、東北地方で未曾有の大地震が発生し多くの方々・地域が被災されました。
セイコーも1923年の関東大震災で被災し、東京にあった工場が全焼しました。
機械も商品も部品も、更には当時お客さまから修理でお預かりしていた1500個余りの時計もすべて一日にして焼失してしまいました。
絶望の淵に立たされた金太郎でしたが、4日後には再開を宣言。すぐに復興に取りかかり、2ヵ月後の11月には営業を再開し、お客さまからお預かりしていた時計も新品をもって弁済、絶大な信用を得ることになりました。

東日本大震災を経験した今、改めて当時のエピソードに触れ、お客さまや株主、社員あつての会社なのだという経営の原点と、不屈の精神による事業の継続が経営の根幹だということを再認識しております。

これからも被災地の方々の支援につながる活動に取り組むとともに、確かな技術と品質で世界のお客さまに信頼される商品・サービスを提供し、日本産業の復活と発展への一翼を担ってまいりますと存じます。



セイコーホールディングス株式会社
代表取締役社長

服部 真二

130年の技術

セイコーは1881年の創業より、数々の革新的な商品を世に送り出してきました。ウォッチ・クロックをはじめ、電子デバイス、眼鏡レンズなどさまざまな分野で商品・サービスを進化させてきました。

1881年～	1910年～	1960年～	1970年～	1980年～	1990年～	2000年～
<p>1892 ・精工舎設立 掛時計の製造始まる</p> <p>1895 ・懐中時計 「タイムキーパー」 の製造始まる</p>	<p>1913 ・国産初の ウォッチ 「ローレル」 発売</p> <p>1930 ・国内初の カメラ用 シャッターの 製造始まる</p>	<p>1964 ・東京オリンピックで 公式計時担当</p> <p>1965 ・部品加工を行う汎用円筒 研削盤を発売</p> <p>1967 ・メカ時計の精度を競う スイスのニュージャテル 天文台コンクールで 上位入賞を独占</p> <p>1968 ・世界初の家庭用クォーツ 掛時計発売 ・国産初のデスクトップ コンピュータ発売</p> <p>1969 ・世界初のクォーツウォッチ 発売</p>	<p>1970 ・大阪万博で世界初の無線 コントロールシステムを 採用した電波時計を 設置</p> <p>1971 ・日本初の自動製図機を 発売</p> <p>1972 ・世界初の8ビットマイクロ プロセッサを インテル社と共同開発</p> <p>1973 ・世界初の6桁表示の デジタルウォッチ発売</p> <p>1975 ・国産初の 眼鏡プラスチックレンズ 発売</p>	<p>1982 ・世界初のテレビウォッチ発売</p> <p>1984 ・音声時計「ピラミッドトーク」 (日本語版)発売 ・日本初の大型からくり時計 「セイコーマリオンクロック」 設置</p> <p>1985 ・世界初のウォッチ型 コンピュータ「腕コン」</p> <p>1986 ・世界初のレストラン向け オーダーエントリー システム開発</p> <p>1987 ・世界初のイオンビーム利用 IC/パターン修正装置を開発</p> <p>1989 ・世界初のマイナス度数 非球面単焦点レンズ 「セイコースーパーMX」発売</p>	<p>1992 ・世界初のフルコンテンツ タイプの電子辞書を発売</p> <p>1997 ・世界初の「内面累進」 遠近両用レンズ発売</p> <p>1998 ・偷しむ歩数計 「東海道五十三次」発売</p> <p>1999 ・世界初のスプリング ドライブウォッチ発売 ・電波修正クロック発売 ・日本初の無線カード決済 サービス「クレビコ」開始</p>	<p>2004 ・蛍光X線有害物質モニター発売 ・世界初のクリップチューナー発売</p> <p>2005 ・無水銀酸化銀電池を開発 ・無線式親子時計システム「タイムリンクプロ」発売</p> <p>2008 ・スプリングドライブスペースウォークウォッチ発表</p> <p>2009 ・遠近両用テイルメイドレンズ 「セイコースベリオールP-1」発売、 グッドデザイン賞受賞</p> <p>2010 ・世界初のアクティブマトリックス方式EPDウォッチ発売 ・誕生50周年の「グランドセイコー」グローバル展開開始</p> <p>2011 ・超小型LDOLレギュレーター IC発売 ・世界初のZONE設計採用単焦点レンズ「A-ZONE」発売</p>

エコの技術

創業以来時計など小型精密機器を開発してきたセイコーでは、小型化・省エネは重要テーマです。今日ではさらに自然エネルギーの活用から省エネソリューションへ発展しています。また、環境計測分野でも社会に貢献しています。



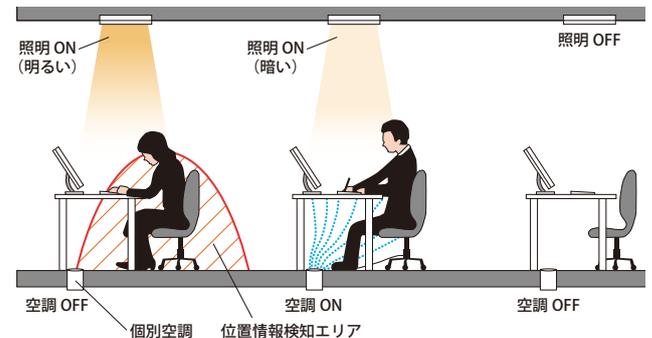
自然エネルギー、新エネルギー、環境計測



ウオッチは、自然エネルギーにより駆動するソーラーとキネティック、ゼンマイで駆動するスプリングドライブとメカニカルなどさまざまな駆動方式で幅広いラインアップを取り揃えています。クロックでは、ソーラー製品などに加え、修理し長く使い続けることができるエコ商品を目指しています。

無水銀電池や有害物質全廃に取り組み、環境に配慮した製品開発に努めています。また、ナノテク関連分析装置など製品や水、土壌、食品などの、有害な成分や混入物を検出、分析する装置を開発しています。さらに、小型燃料電池など新たなエネルギー源の研究開発も進めています。

省エネソリューション



省エネソリューションパッケージ「GreenTALK」は、コンパクトなセンサー端末「Mr.匠エネ」を標準実装。安価で簡単に「見える化」と「省エネ」を実現しました。工事不要、既存設備との簡易接続など、優れた特長がお客さまから高い評価をいただいています。

さらに、快適なオフィス環境を省エネで実現するスマートオフィスをサポート。センサーを利用した個人認証技術により、共用部も含め、一人ひとりにあわせ、温度、照度など室内環境をきめ細かく制御、省エネの実現と同時に快適なオフィス環境を提供、スマートコミュニティの一翼を担っています。

信頼の技術

いつの時代にあっても、変わらぬテーマは、確かな品質によってお客さまに安心と満足を届けることです。確かな品質こそが、セイコーとお客さまをつなぐ最良のコミュニケーションであることを心に刻み、日々、開発・製造に取り組んでいます。



高級機械式ムーブメント



高級機械式ウォッチ



レンズ



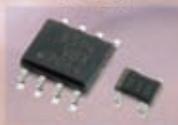
水晶振動子



精密加工部品



カメラシャッター



CMOS IC



ハードディスク用部品



全自動内面研削盤



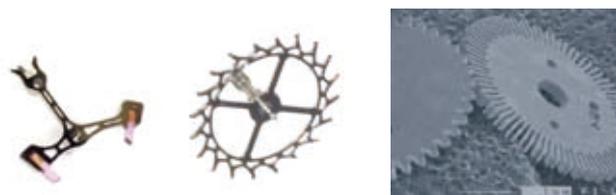
データ通信カード

信頼のモノづくり



豊石高級時計工房

豊石高級時計工房は、高級機械式ウォッチの一貫生産ができる専門工房です。先進技術も取り入れながら伝統的な匠の技を駆使し、新しい価値を追求。信頼の技術の一端を担っています。



UV-LIGA技術で製作した時計部品

半導体製造技術であるフォトリソグラフィを用い、極小部品の立体形状や可動構造を形成するUV-LIGA技術。この技術を応用し、機械式ウォッチの部品を製作しています。寸法精度2倍以上、軽量化、微細化も実現。複雑な機構での駆動を可能にし、基本機能と信頼性が向上します。

信頼の商品



ウォッチ製造で培った技術は、高い精度を必要とする加工部品や工作機械、小型・軽量、低消費電力の電子デバイスなどに活かされ、高い信頼性が求められる製品に広く応用されています。



「スペリオールP-1」は、お客さまの処方度数や装用状況、生活パターンなどを解析し、1959兆を超えるほぼ無限大の種類の中から最適なレンズをカスタマイズする遠近両用テ일러メイドレンズです。「A-ZONE」は、世界初ZONE設計*を採用し、快適な装用感とスタイリッシュな外観を両立させた先進の近視・遠視・乱視用レンズです。

*「見る時」の機能性と「見られる時」のファッション性という2つの異なるZONEから構成されています。

セイコーは確かな技術と品質で、お客さまに安心と満足をお届けしたいと願い、スポーツ・健康の分野や安心で便利なネットワーク社会に貢献すべく努めています。



信頼の商品・サービス



10000分の1秒まで計測可能な最新の計測技術を採用したスポーツ計測機器、システムは、陸上をはじめ、水泳やスピードスケートなどさまざまな競技で感動の瞬間をサポートしています。



ラ・クロック



温度・湿度表示クロック

Ra-Clock(ラ・クロック)は、「電波時計の高精度」に「クォーツ時計の扱い易さ」を合わせ持つ新開発のムーブメント搭載の時計です。温度・湿度表示クロックは、健康管理や室内の環境管理にもたいへん役立ちます。

信頼のソリューション



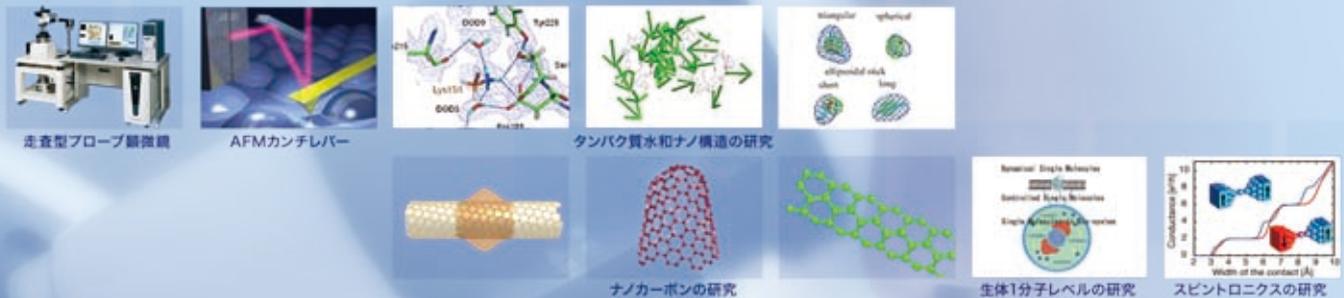
時刻配信、時刻認証サービスなどのサイバータイムビジネスでデジタルエビデンスソリューションを展開し、知的財産保護、電子契約、医療情報、記録管理など、安心・安全なICT社会構築に、信頼のおける時刻で貢献しています。



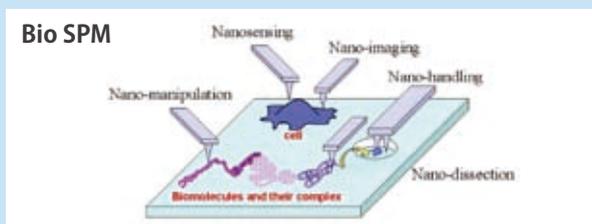
CREPiCOはタクシーや訪問販売などのカード決済を可能にした日本初の無線決済サービスです。電子マネーなど非接触IC用端末や情報処理サービスなど、安全で便利なユビキタスネットワーク社会の進化に貢献しています。

新世代研究所

(財)新世代研究所(略称ATI)はセイコーインスツル(株)が全面的に支援している財団法人です。ATIではナノサイエンスにおける新しい研究概念の創出と、異分野研究領域間の融合促進をはかるための学術研究活動を推進しています。

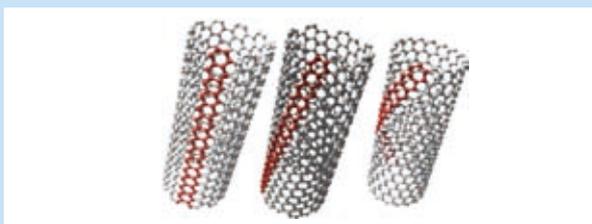


バイオSPM研究会



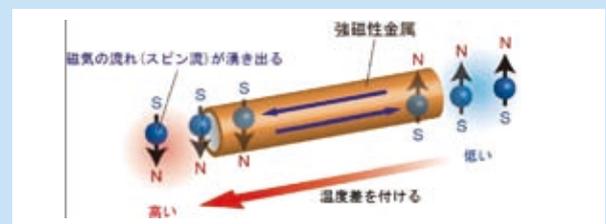
ナノスケールの観察技術であるSPM(走査プローブ顕微鏡)のバイオ分野での応用展開を目指しています。単なるイメージングから、物性の計測、分子操作や加工への発展が期待されます。

ナノカーボン研究会



優れた材料特性が見出されているナノカーボンの「構造制御」を中心とする基礎と応用の研究、また新しい物性の発見と電子デバイス等への応用が期待されるグラフェンの基礎科学研究を推進しています。

スピントロニクス研究会



電荷の流れである電流に加えて電子スピンの流れを考慮することにより、新しい電磁気物性が次々と見出されています。基礎研究とともに新規の電子デバイスへの応用研究が推進されています。

「時を計る」研究会



時を刻む装置としての時計、その技術と歴史、日本やスイスにおける時計産業の考察、自然・生命と時など、さまざまな側面から「時」をとらえ、技術-産業-社会-文化という関連の中で「時」を考察しています。

社長座談会

130年の技術がひらく未来をテーマに、服部社長と事業会社の若手社員による座談会を行いました。



寶來 (ほうらい) さん



牧野さん



服部社長



石田さん

出席者紹介

- 服部** 皆さん、今日は座談会にお集まりいただきありがとうございます。まずは最初に自己紹介をお願いします。
- 牧野** セイコーウオッチ(株)2007年入社です。入社時から国内レディースブランドウォッチの商品企画を担当しています。昨年からはルキアを担当しています。
- 石田** セイコーインスツル(株)2003年入社です。電子辞書やレストランのオーダーリングシステムの営業を担当し、現在はクレジットカードの決済システムを担当しています。
- 寶來** セイコープレジジョン(株)2004年入社です。入社当初はタイムサーバーの開発を担当し、現在はネットワーク機器のファームウェアの開発を担当しています。



創業130周年に寄せる思い

- 服部** セイコーは今年、創業130周年を迎えたわけですが、皆さんはどのような思いをお持ちですか？
- 牧野** 私の上司がよく「10年後、20年後、自分は会社にはいないかもしれないが、その時に、若い世代が活躍できる環境を創っていかなければならない」と話してくれます。同じように先人たちが常に10年先、20年先のセイコーの繁栄を考えて来たからこそ130年もの間、続いて来たのだと思います。
- 石田** 私も130年の重みを感じています。先人たちの知恵や努力に感謝するとともに、これからは私たちがセイコーの歴史をつないでいかなければなりません。それにはグループの結束力を一層高める必要があると思います。
- 寶來** 私が思うのはセイコーは130年の間、常に多くの新しい価値を生み続けてきたということです。私も開発者としてこの流れを止めてはいけなくと身の引き締まる思いです。
- 服部** 確かにセイコーにとってこの130年は技術革新の連続でした。しかし優れた技術も、それを活かす努力をしなければ埋もれてしまいます。事業単体の技術を磨くだけでなく、事業間で情報を共有し、技術を活かしていく仕組みを考えなければなりません。日本企業を取り巻く環境は、リーマンショック、円高、震災などの困難が続いていますが、私は130周年という節目の今こそ、新しいセイコーとして、次の飛躍を目指す絶好の機会であり、これからが楽しみだと考えています。



次の時代に求められること

服部 ところで皆さんは、セイコーが今後さらに飛躍するために何が必要だと思いますか？

石田 現在、決済サービスや飲食店等のプロモーションなどクラウド型サービスの拡大を目指していますが、そこで求められるのは構想力だと考えています。グループ内には、様々な技術やリソースがありますが、そうしたものを上手く組み合わせることによって新たなサービスを生み出し、ワールドワイドにビジネスを展開していきたいですね。

牧野 ただ、せっかく色々な技術があるのに、各社の事業が多岐にわたっているため、同じグループ内でも各社が何をやっているのか、どんな技術があるのか知らない人が多いのではないのでしょうか？もっとグループ内で情報を共有して、お互いのリソースを上手に活用することが必要だと思います。

服部 全く同感です。そういう意味では、セイコープレジジョンの省エネソリューションパッケージ「GreenTALK」は好例だと思います。「GreenTALK」自体は、ビルや工場のエネルギー監視や制御を行うためのシステムですが、ここにセイコーインスツルが開発したエネルギーセンサーノード「Mr.匠エネ」が標準装備されたことで、建物内のセンサーの設置からシステム管理までの総合的な省エネソリューションが提供できるようになりました。グループ各社それぞれに魅力ある製品や技術がたくさんあるわけですから、お互いもっと活用できるような事業間の社員のつながりを強める機会を創っていきたいと思います。

竇来 私はネットワーク機器の開発をしていますが、世間では「セイコー」というとウオッチや精密機器・部品のイメージが強く、ネットワーク機器のことについてはあまり知られていません。お客様の認知度が高まるような製品を開発し、存在感ある事業にしたいと思っています。

服部 中期経営計画では、「ウオッチ、電子・メカトロデバイスに続く『第3の事業』につながる新たな付加価値創出の実現」を基本戦略に掲げています。是非ともネットワーク機器がセイコーの「第3の事業」へとつながるよう、

画期的な新製品の開発を期待しています。頑張ってください。

それからお話し通り、世間では「セイコー」という時計製品以外はあまり知られていません。そこで、投資家や証券アナリストを会社に招き、セイコーグループの多岐にわたる事業や高い技術力を紹介する機会を設けています。今後もこうした広報、IRの活動に力を入れていきたいと思っています。

牧野 これは当たり前のことですが、消費者の心をつかむことの重要性を感じています。特にウオッチのように、機能や価格以外に、消費者にとっての感性が求められる商品では、企業の目線ではなく、企業側がもっと消費者に寄り添い、ともに考えていく姿勢が求められます。それにより事業の新しい可能性が開けていくのではないのでしょうか。

服部 牧野さんが言うとおりの、大切なのは消費者の生の声です。消費者が今、ウオッチに何を求めているのか、どんなことに共感するのかは、オフィスでいくら考えても答えは出てきません。営業だけでなく企画担当者も店頭で足しげく顔を出したり、消費者との座談会で消費者の生の声を直接聴くといったことが大切です。是非、お客様とのと接点を増やし、お客様の心をつかむ提案を期待しています。

時が求める商品と職場の追求

服部 欧米を中心としたこれまでのグローバル経済から、ビジネスの主戦場が中国、インドなどの新興国市場へ急速にシフトするなど、世界はまさに大きな転換期を迎えようとしています。そうした状況の中でいかに時代に即した商品を提供できるかが、今後、厳しい競争の中で生き残る鍵となります。

それには、皆さんのように若い人たちがワイワイ議論したり、組織の枠にとらわれることなく、事業間を横断的に走り回り、新たな製品や課題解決の為のアイデアを次々に提案していくといったことが必要です。





寶來 私も事業会社の枠を越え、近いジャンルの事業はお互いに協力し、一緒に展開したいと思っています。新製品の提案とはちょっと違いますが、例えばセイコーが大切にしている品質の基準などのグループ統一化をはかることも大事だと思います。

服部 品質の向上は全社一丸で取り組まなければならないテーマです。製品別の基準統一化には、まさに横の連携をはかることが不可欠です。

牧野 品質については、セイコーの石橋を叩いて渡る姿勢がお客様の信頼につながっている一面もあります。基準の統一化は各社がお互いに歩み寄りながら、足並みを揃えていくしかないと思います。話は変わりますがセイコーの長い歴史の中で、クオーツウォッチの誕生は人々の生活を大きく変えた瞬間だったと思います。ゼンマイを巻くことや時刻を合わせる煩わしさから解放されたわけですからね。次の130年の間で、同様なことが出来たら良いと思います。セイコーが持っているパズルピースを上手く組み合わせれば必ず出来るような気がします。

石田 それにはもっと社員同士がお互いフランクに話し合えるような機会を増やすことが大事だと思います。そのためSIIでは非公式なイベントですが、新入社員から入社10年目位までの若手社員が有志で集まる交流会が行われており、情報交換とともにお互いを刺激し合う機会になっています。

服部 是非、そういった機会を広げてください。現在は事業分野が多岐にわたっているので組織が細分化され、その分、コミュニケーションの壁が存在しているかもしれません。そこで、先ほども少し触れましたが、社員同士が知り合い議論できる場をもっと作るために、グループ横断の総合研修を充実させていきたいと考えています。良い製品やサービスは自由闊達な議論から生まれるものです。是非皆さんも積極的に参加して人的ネットワークを沢山作ってください。

ステークホルダーへのメッセージ

服部 今日はいろいろな意見を聞かせてくれてありがとうございました。これからのセイコーを支える若い人たちが日頃から高い問題意識をもって取り組んでいることを知り、大変頼もしく感じました。では最後に一人ひとりからステークホルダーに向けたメッセージをお願いします。

牧野 創業130周年というと古臭いイメージを持たれがちですが、そのようなことはありません。常に技術革新を追求し、IT、ナノテク、電子デバイスなどの最先端の分野でも、これまでに積み重ねてきた技術やリソースをうまく利用しながら新しい未来に向かっていこうという機運があります。特に学生の皆さんにはそのことを伝えたいですね。

石田 私は、セイコーインスツルと統合したことによって、必ずや新しいセイコーに生まれ変わるということを伝えたいです。そして社員の皆さんには、「1万8千人のグループ社員の知恵とアイデアを結集し、さらに良い会社にしていきましょう」と言いたいですね。そのためには服部社長には、新しいセイコーへの思いや考えをSSステーション(社長webサイト)などを通じてどんどん発信していただきたいと思っています。

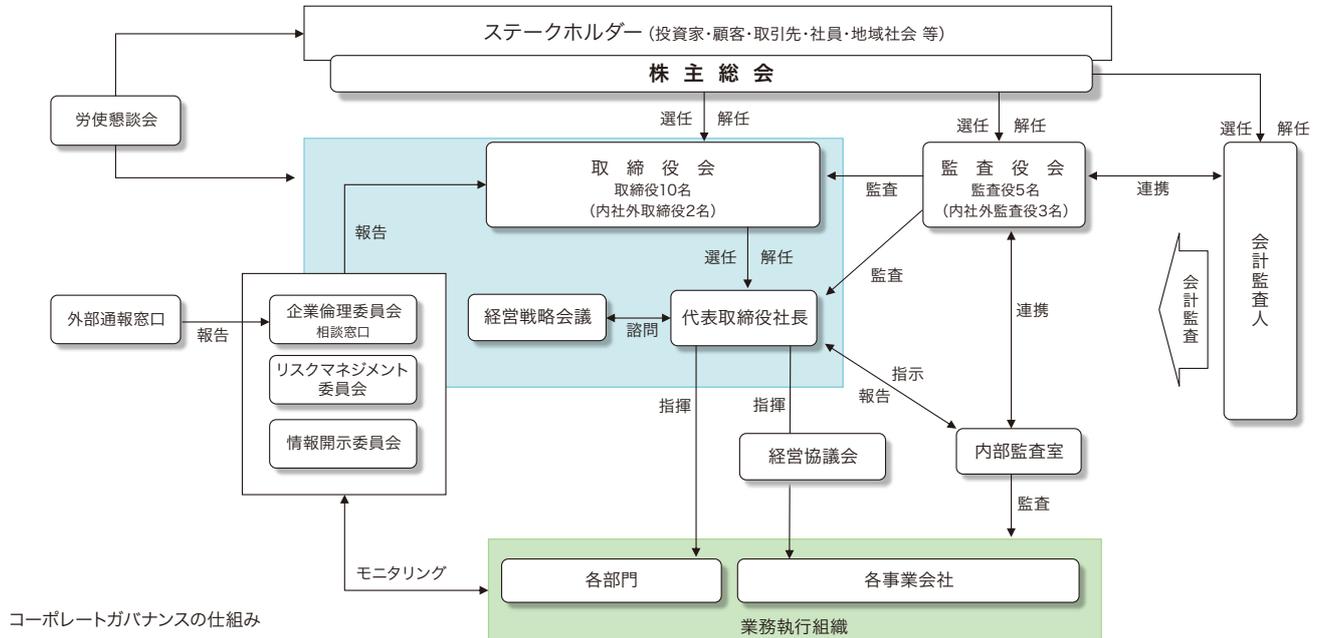
寶來 私は先ほどの繰り返しになりますが、担当するシステム事業が、ウォッチ、電子メカトロデバイスに次ぐ、第3の柱になるべく、進化、発展を続けていることをしっかりとステークホルダーの方々にアピールしていきたいです。

服部 それでは最後に私からです。セイコーは、2009年にセイコーインスツルを統合し、メーカー色の強い、先進技術を追求する技術者集団に生まれ変わりました。また、コーポレートガバナンスを再構築し、老舗企業にありがちな古い企業体質を無くし「時が求める商品と職場」の追求をはじめとする3つの経営方針を掲げ、実践しています。これらを通じ私たちは、「世界のセイコー」に恥じないよう、お客さまをはじめステークホルダーの皆様へ安心と満足を提供し、豊かな社会創りに貢献していきたいと考えています。



コーポレートガバナンス

グループの基本理念である「社会に信頼される会社であること」の実行に向け、透明性のある合理的な経営を目指します。



透明性と合理性を持った経営



経営方針を説明する服部社長

- ① 社内意思決定プロセスの充実
 - ・ 経営戦略会議の常設
 - ・ 経営協議会(グループ会社社長会)の常設
 - ・ 社内委員会制度の拡充
- ② 経営評価体制の強化
 - ・ 社外取締役の増員
 - ・ 経営に関する内部牽制(内部監査等)機能の充実
 - ・ 外部通報窓口の新設
- ③ 健全な労使関係の確立
 - ・ 労使懇談会の充実

企業競争力強化と“やりがい”のある職場づくり

- ① グローバル企業として、さらなる競争力強化
 - ・ 赤字を許さない企業体質への変革
 - ・ スピード経営の実現
 - ・ グループの連携を深め、総合力を強化
- ② “やりがい”のある明るい職場づくり
 - ・ 自由闊達で風通しの良い職場環境の整備
 - ・ ボトムアップ提案を歓迎する企業風土の醸成
 - ・ ハラスメントを許さない明るい職場環境の維持
 - ・ 公平な人事制度の確立

ステークホルダーの満足度向上

- ① 豊かな社会づくりに貢献する商品・サービスの創出
 - ・ お客さまに評価される商品・サービスをタイムリーに提供
 - ・ 環境に配慮した商品・サービスの開発を継続強化
- ② 環境変化に対応できる職場・組織づくり
 - ・ 社内コミュニケーションと情報共有を支援するシステムの構築
 - ・ 人材の育成と適材適所を推進し、職場・組織力を強化

新たな付加価値の創出

当社は2009年10月セイコーインスツル(株)を完全子会社化しました。当社グループとの経営統合をはかることにより、それぞれの強みを活かしながらグループ丸となって、持続的な成長と発展が可能な事業基盤の確立を目指します。



SWC2 Project

Time is infinity is proceeding like a dream of life river reflecting dawn sunrise or moon light. What is infinity? Where is katachi of infinity? It must be in your circled time and later life of mature. Seductive whimsy, fun, luxury, it is ever the best of all. Gap and tolerance, cravice and between, or beyond. Omnipotent or omnibehaved, before or after. "man" woman "birth-death-infinity" Eternity of time will be yours!

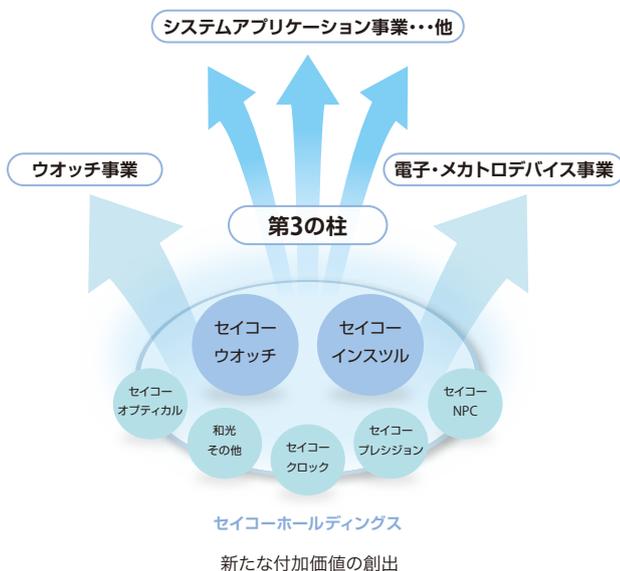
若手社員が中心となった商品企画プロジェクトで提案内容をまとめたパネル



社員と対話する服部社長・新保SII 社長

グループ横断で議論する「ワイガヤ会議」

「時が求める商品と職場」の追求



大阪「ワイガヤ会議」

持続的な成長と発展が可能な事業基盤整備・確立の大きなカギとなるのは、第1の柱であるウオッチ事業の成長戦略推進、第2の柱の電子・メカトロデバイス事業の開発・製造体制の最適化、効率化に加え、第3の柱となる事業の育成を行うことです。時代が求める商品を提供するため、セイコーのブランド力、ハードとソフト両面の技術・開発力のシナジーを活かし「第3の事業」につながる新たな付加価値の創出を目指します。

事業会社間のシナジーを発揮するために、グループ横断ワイガヤ会議を地域、事業、機能ごとに開催するなど、さまざまなテーマ、階層でグループ横断の話し合いの機会を設けています。テーマを考えるだけでなく、グループ社員が一緒に議論する文化の醸成や、事業や会社の枠を越えて全体最適を考え、積極的に連携をはかることができる人材の育成にも結びついています。

新しいセイコー

グローバル企業として、さらなる競争力強化をはかり、“やりがい”のある明るい職場づくりを進め、新しいセイコーに生まれ変わります。



セイコーサロン

フラッグシップショップの開設

(株)和光は、銀座の和光本館を改装し、2011年6月、リニューアルオープンしました。銀座は原点ともいえる創業の地。和光本館をセイコーの顔となる、グループの情報を発信する旗艦店として位置づけ、商品を通して先進技術を発信してまいります。

和光は、セイコーブランドの最新情報を発信する場として、ウォッチのみならず、メガネやクロックでもセイコーの最新技術やデザインをアピールし、最高の品揃えを提供していきます。

2011年6月和光本館の時計塔に「SEIKO」のロゴマークを掲げました。銀座のシンボルでもある時計塔は、セイコーの顔として今後も時を刻んでいきます。和光は銀座4丁目交差点に位置する本館を中心に複数の店舗で営業を行ってまいりましたが、店舗の整理統合を進め売場を本館に集約。2010年10月より日曜・祝日営業を開始し、お客さまにはより便利にお買い物をお楽しみいただいています。

オープンな企業風土の醸成

“やりがい”のある明るい職場、自由闊達で風通しの良い職場づくりに努めています。

イントラネットでは社長ウェブサイトを開設し、社員へのメッセージや経営情報を発信。社員からの意見や質問を投稿できる環境を用意し、全ての質問や意見に一つひとつ答えています。また昼休みには社長を囲んでのランチミーティングを開くなど、経営者に対して気兼ねなく意見を言える会社、ボトムアップ提案を歓迎するオープンな企業風土の醸成を目指しています。



社長のウェブサイト「SS Station」



メガネ売場



クロック売場



社長と社員のランチミーティング

第4次中期経営計画

当社は、2013年3月期を最終年度とする第4次中期経営計画を策定いたしました。新経営体制のもと、グループ全体が一致団結して同計画に掲げた経営目標の達成を目指しています。

基本方針



第4次中期経営計画説明会

セイコーインスツル(株)との経営統合の更なる深化をはかり、持続的な成長と発展が可能な事業基盤の整備・確立を目指します。その実現に向け、以下の2点に注力します。

① 事業力の徹底強化

事業の基盤強化・拡充を徹底的に行うことで、グループとしての収益体質の改善をはかるとともに、収益の拡大を目指します。

② 財務の健全化

事業収益力の向上とともに、財務体質の改善と信用力の向上に向けた諸施策を積極的に推進します。

基本戦略

① ウォッチ事業の収益最大化

セイコーインスツル(株)のウォッチ製造とムーブメント販売を含めた開発・製造から販売までの一貫体制のもと、新たな成長戦略の推進をはかります。さらに、セイコーエプソン(株)とのバーチャル一社化を深め、将来の製造・販売体制の再編も視野に入れながら、一層の事業拡大と収益最大化を目指します。

② 電子部品事業の収益力強化

セイコーインスツル(株)が得意とする電子・メカトロデバイス事業を核に、グループ他社との開発・製造体制の最適化、効率化を推進し、グループ全体の電子部品事業の基盤の安定化と収益力強化をはかります。

③ 新たな付加価値の創出

ウォッチ、電子・メカトロデバイスに続く「第3の事業」につながる新たな付加価値創出の実現を目指し、グループ各社、各事業の持つあらゆる資源の有効活用をはかるとともに、会社・事業をまたがる相互活用を積極的に推進します。

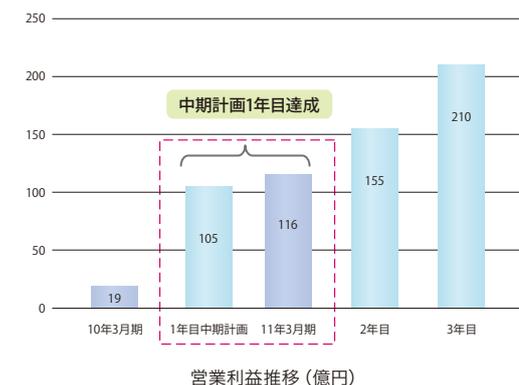
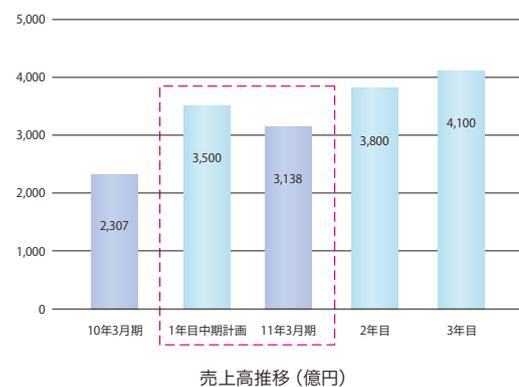
経営目標数値・実績

本計画最終年度において、以下の目標数値の達成を目指します。

- ① 売上高経常利益率 4%以上
- ② 借入金残高 2,000億円以下
- ③ 自己資本比率 15%の達成
- ④ Net D/E Ratio(有利子負債比率) 2.1以下

	実績 (億円)	中期経営計画			2011年3月期	
		2011年 3月期	2012年 3月期	2013年 3月期	実績	対計画増減
売上高	2,307	3,500	3,800	4,100	3,138	△362
営業利益	19	105	155	210	116	+11
経常利益	△19	65	115	170	65	-
(%)	-	1.9%	3.0%	4.1%	2.1%	0.2%
当期利益	△36	50	75	100	21	△29
(%)	-	1.4%	2.0%	2.4%	0.7%	△0.7%

数値計画実績(億円)



地域・社会との共存

セイコーホールディングス(株)および各事業会社では、地域・社会の繁栄、地域・社会との共存を目的に、さまざまな活動に取り組んでいます。



チャリティ募金支援活動(香港)



市民マラソン計時支援活動(東京)



研究機関との共同開発支援活動(シンガポール)



ソーラー飛行機プロジェクト協賛活動(ドイツ)



教育センターへの給食支援活動(タイ)



マングローブ植林活動(タイ)

スポーツ協賛活動



©PHOTO KISHIMOTO

セイコーは1964年開催の東京オリンピックで、初めてオフィシャルタイマー(公式計時)を務め、世界に先駆けて総合的な電子計時システムを導入し、クォーツ時代の幕開けを飾りました。現在も、陸上をはじめ、水泳やスピードスケートなどさまざまな競技で、最新の計測技術を駆使した計時支援を行い、世界中で感動の瞬間をサポートしています。

メカ時計組立体験セミナー



盛岡セイコー工業(株)では、一般の方を対象としたメカ時計組立体験のセミナーを開催しています。このセミナーは、2007年から始め、地域のみならず全国から参加いただいています。初日に初めての方でもできる体験コースを行い、2日目は、初級コースとして、分解、洗浄、注油、組立を行う、少しレベルの高い内容の2コースを実施しています。

歴史的建造物の維持



2008年にリニューアルした和光本館が2010年BCS賞(建築業協会賞)特別賞を受賞しました。BCS賞とは、わが国の良好な建築資産の創出をはかり、文化の進展と地球環境保全に寄与することを目的に毎年、国内の優秀な建築作品に対して表彰される賞です。銀座のランドマークとして親しまれている和光本館の外観をそのままに、耐震改修と修復をほどこし再構築したことが評価されました。和光本館は2009年には経済産業省より近代化産業遺産に認定されています。

キッズニア協賛活動

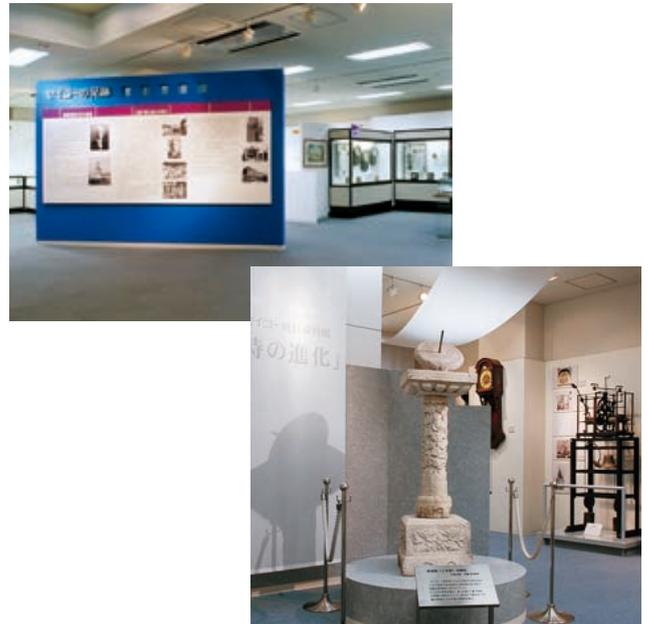


セイコーは子どもが社会のしくみを学べる子どもの街「キッズニア東京」と「キッズニア甲子園」のオフィシャルスポンサーとして、「街時計」パビリオンを出展しています。

「街時計」パビリオンは、子どもたち自らが「からくり時計」のパフォーマーとなり、「時」を告げるアクティビティによって「時」「時間」の意味やその大切さを学びながら、人前で演じるプレゼンテーション能力を身につけることができる施設です。2011年から英語体験アクティビティもはじめました。

私どものキッズニアに対するサポートが、子供たちの未来を育む手助けとなり、ともに豊かで美しい「時」を創造していくことができるよう願っています。

セイコーミュージアム



セイコーミュージアムはセイコーの創業100年を記念し1981年にセイコー時計資料館として開館しました。

「時」「時計」に関する広範囲な標本・資料を収集しており、主に日本の時計産業の成立・発展の歴史を紹介しています。創業時からのクロック・ウォッチの展示をはじめ、日本および海外の“時”や“時計”に関する各種の標本・資料・書籍を体系的に収集・整理・保存しており、時計産業史全般を理解していただけます。2012年セイコーの創業130年を記念し、セイコーミュージアムと改称、さらに充実した展示をすべく予定しております。

フロアガイド

1F 「時の進化」のフロア

日時計から和時計、クォーツの開発まで、各種時計を簡単な解説とともに展示しています。

2F 「セイコーの足跡」のフロア

各時代を代表するエポックメイキングなセイコーのウォッチとクロックを展示しています。

3F 図書閲覧のフロア

時と時計に関する約8,000点の文献資料を図書検索用PCで検索のうえ閲覧することができます。

館内見学につきましては、より一層展示品を理解していただくために、説明員による館内案内を実施しておりますので、ご来館の際は、事前にご予約をさせていただきますようお願いいたします。

[Web](http://www.seiko.co.jp/nihongo/horology/index.html) セイコーミュージアム
<http://www.seiko.co.jp/nihongo/horology/index.html>

災害支援

セイコーホールディングスグループでは、130周年プロジェクトの一環として、震災被災地・被災者に対して、130の支援プログラムを実行する、災害支援プロジェクト SEIKO 130 Actions を展開しています。



SEIKO 130 Actions

創業者服部金太郎は、関東大震災の被害にあった、修理のためにお預かりした時計を、お客さまに迷惑をかけないという態度を貫き同程度の新品をもって返済し、信頼を得ることができました。東日本大震災ではこの精神に立ち返り、将来に引き継ぐべく災害支援プロジェクト SEIKO 130 Actions を

展開しています。これは個人・有志・組織・会社・グループが自己申告、社内登録し実施するもので、2014年3月まで、様々なテーマで随時展開いたします。参加社員はボランティア休暇制度が利用できます。

SEIKO 130 Actions		
#001 日本赤十字社義捐金 (会社)	#016 PHS 端末待ち受け 「You're always connected.」	#031 被災地ボランティア活動への参加
#002 日本赤十字社義捐金 (社員)	#017 吹奏楽団チャリティコンサート	#032 コンサートの収益金を被災地復興支援に
#003 防災クロックと老眼鏡寄贈	#018 被災地コンサート協賛	#033 「復興アクション」キャンペーン
#004 和光店頭での救援募金活動	#019 大連市紅十字会義捐金	#034 チャリティコンサート 活動
#005 震災からの復興を目指した ウィンドウディスプレイ	#020 チャリティライブイベント出演	#035 ボランティア活動に参加
#006 緊急用メガネレンズ寄贈	#021 カメラ映像機器工業会支援活動協力 及び寄付	#036 岩手県被災者へのクロックの寄贈
#007 被災クロック半額修理	#022 ランニングウォッチの提供	#037 福島県の小中学校へ チューナー・メトロノームを寄贈
#008 PC 寄贈	#023 「『手のひらを太陽に』 つなごう心と心」プロジェクトに協賛	#038 震災復興支援キャンペーン実施
#009 東北得意先お見舞いキャラバン	#024 米国赤十字義捐金	#039 香港赤十字社義捐金
#010 被災取引先へ生活必需品寄贈	#025 被災地眼鏡店へ販促物を無償提供	#040 台北市商工会義捐金
#011 被災地商工会議所義捐金	#026 ボランティア及び義捐金アピール	#041 米国赤十字社義捐金
#012 被災者へのウォッチの寄贈	#027 前田憲男チャリティコンサート 特別協賛	#042 被災取引先へのお見舞いおよび義捐金
#013 自宅で眠っているモノを支援物資に	#028 吹奏楽団チャリティコンサート	#043 がんばれ宮古! 目黒のさんま祭ボランティアスタッフ
#014 高等学校へストップウォッチの提供	#029 NPO 復興支援活動ボランティア	#044 チャリティ落語会
#015 ボランティアバスツアーに参加	#030 避難所慰問演奏会	

*2011年9月現在(抜粋)

社員・職場環境

セイコーホールディングス(株)および各事業会社は、社員一人ひとりが安全で安心して働ける職場環境を実現することが、社会的な責任を果たすだけでなく、企業業績の永続的な向上につながると考えています。



働きやすい環境づくり

社員の構成は下記の通りです。

社員の構成(2011年3月現在・国内主要連結会社)

社員男女比率		管理職比率		管理職の男女比率	
男性	77%	管理職	15%	男性	97%
女性	23%	一般職	85%	女性	3%

「管理職」は、課長職以上

育児休業・育児短時間勤務制度取得社員が、仕事と子育てを両立させることができ、能力を十分に発揮できる環境づくりに努めています。2010年度国内主要事業会社では、育児休業は52名、育児短時間勤務は108名が、制度取得しています。

改正「次世代育成支援対策推進法」にもとづき、行動計画を策定し、2015年までに達成することを目標として各社で取り組みを進めています。

目標1. 計画期間中に育児休業取得状況を次の水準にする。

男性社員・・・計画期間内に1名以上取得すること

女性社員・・・取得率70%以上を維持・継続すること

目標2. 所定外労働を削減するため、ノー残業デーの徹底をはかる。

目標3. 育児短時間勤務制度の改善を行う。

能力開発と仕事に専念できる環境づくり

当社グループ社員を対象に様々な階層別研修を実施し、グループ全体の人材育成に力を注いでいます。

【2010年度階層別研修】

4月	新入社員研修	(新入社員)
10月	新任管理職フォローアップ研修	(前年度昇任者)
11月	新任管理職研修	(昇任者)
1月	新入社員フォローアップ研修	
2月・3月	若手社員研修	

社員の健康と安全を確保するため定期的な健康診断やストレスチェックテスト、健康相談窓口の設置などの取り組みのほか、長時間労働による健康障害の防止やメンタルヘルスケアなどの諸対策を実施しています。

【メンタルヘルスケアの推進】

グループ管理職向け研修実施(12月・1月実施)

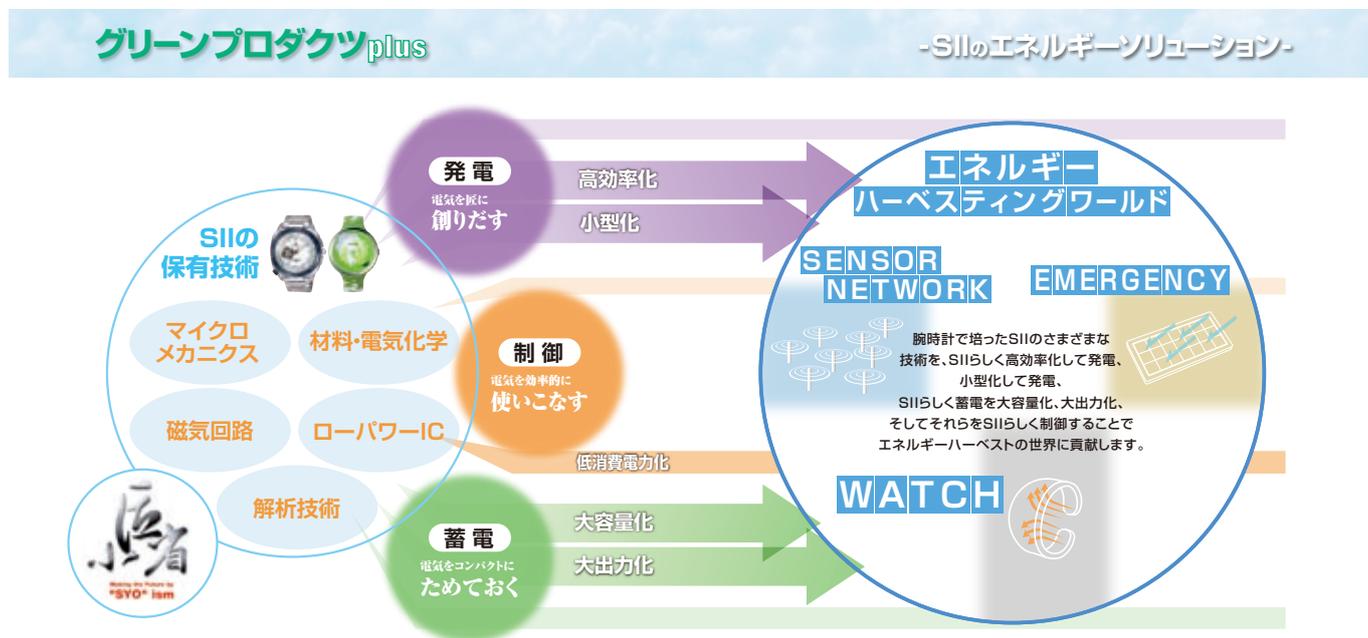
グループ社員ストレスチェックテストの実施

社外24時間健康相談窓口「セイコー健康相談室24」の設置

大規模災害発生時に取るべき行動をまとめた「災害対策マニュアル」を配布。社員と家族の安否を確認するための専用システムを導入し、非常時用資材の確保・配布などを行い、社員の安全確保をはかっています。

環境に配慮した商品

環境に配慮した数多くの商品を市場に送り出しています。また、これに加えて、お客さまの製品の環境性能を向上するような製品、そして環境の改善に積極的に貢献する製品やサービスの創出に注力しています。



SIIグリーン商品

セイコーインスツル(株)は、3つのグリーン「グリーンプロセス、グリーンプロダクツ、グリーンライフ」を基本コンセプトとするグリーンプランを策定し、環境経営を実践しています。2001年自社基準によるSIIグリーン商品ラベル制度を導入、2010年には「SIIグリーン商品」累計1,000商品を達成しました。今後は「自社の製品が組み込まれる事でお客さまの製品の環境性能を向上できる」、そして「人々が生活する環境の保全に貢献できる」という考え方を「グリーンプロダクツplus」と名付け、グリーン商品基準の評価項目に取り入れ、製品やサービスの創出に注力すべく、運用していきます。

選べるエコ

セイコーウオッチ(株)のエコ・ウオッチは、エコマーク認定商品を中心に、さまざまなシーンやスタイルにあわせて選べます。水銀を一切使用しない「無水銀電池」への切り替えも完了。環境負荷の低減に取り組んでいます。

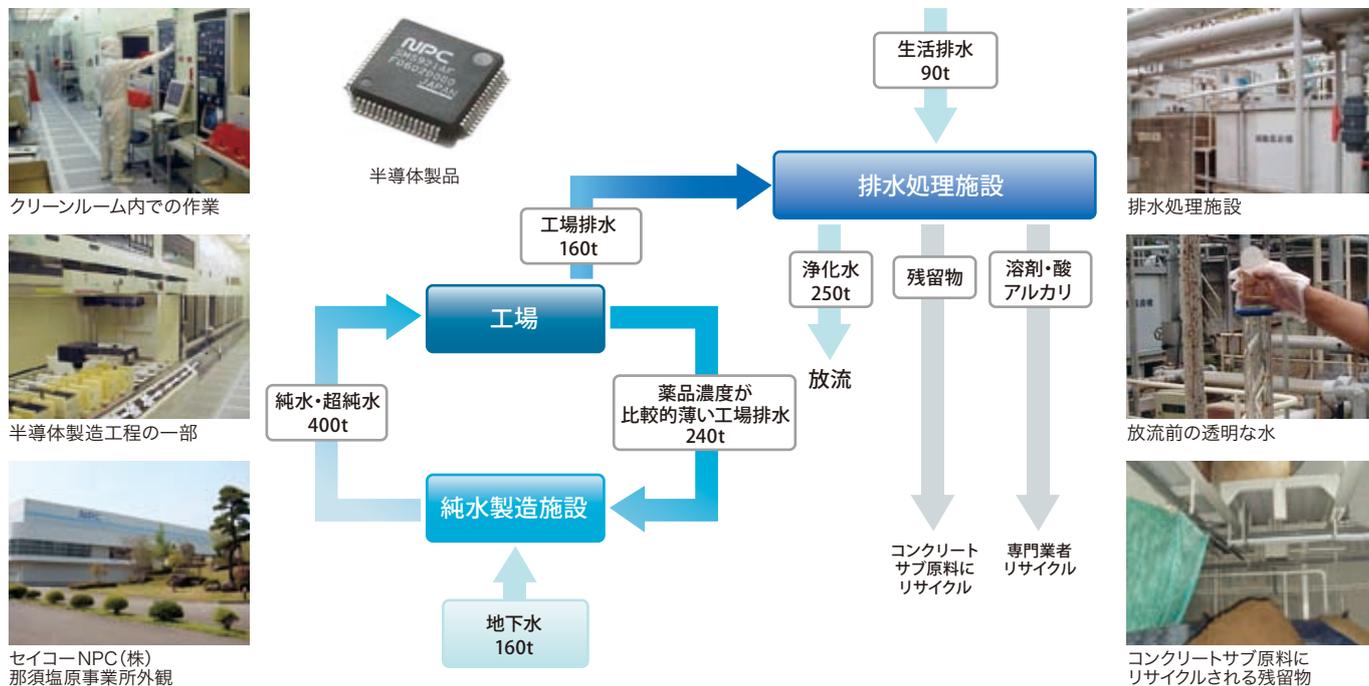
セイコークロック(株)のエコ・クロックは、グリーン購入法適合商品を中心に豊富なラインアップを揃えています。

セイコースポーツライフ(株)のメトロノーム、セイコータイムシステム(株)のファインクロックなどは、自社基準によるエコラベルを表示、対象商品の拡大に取り組んでいます。



循環型社会への貢献

各事業会社は、製造事業所内での活動はもとより、商品・包装材のリサイクルや省資源化に取り組み、限りある資源を大切にしています。



水資源保全の取り組み

セイコーNPC(株)のIC製造拠点である那須塩原事業所は、日光国立公園から続く美しい自然の中にあり、敷地内は国内希少野生動物に指定されているオオタカが棲んでいるほど自然が豊かで、厳しい環境管理体制を確立しています。

ICの製造には、徹底した洗浄が不可欠。最終洗浄には超純水を使用し、一日に必要なとされる洗浄水は、約400トンにもものぼります。そこで大切な水資源の節約利用を目指し、薬品濃度が比較的薄い排水を回収、不純物を除去し、超純水として再利用しています。リサイクルに適さない残りの工場排水160トンと生活排水90トンは敷地内の排水処理施設で処理・濾過し、塩素滅菌して放流しています。このリサイクル活用は、地下水の枯渇を防ぐだけでなく、上水費用の削減も実現しています。

放流水には水質汚濁防止法の基準はもちろん、それよりさらに厳しい県条例の基準をはるかに上回る厳しい自主基準値を設けています。

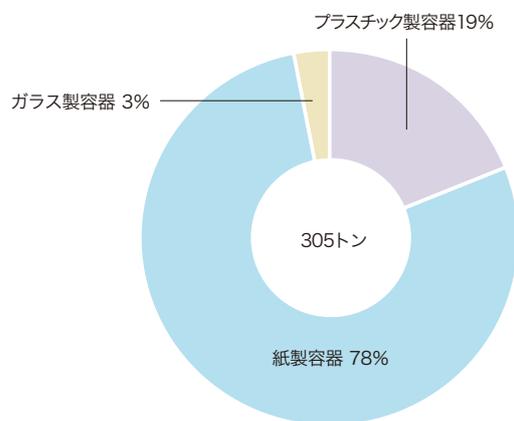
また、排水処理の過程で沈殿槽に毎日約450kgの残留物が沈殿します。残留物にはシリコンや鉄分などが含まれており、脱水された後、コンクリートサブ原料としてリサイクル利用されています。

リサイクルへの取り組み

セイコーサービスセンター(株)は、ボタン型電池回収箱を販売店から回収。専門業者により分解され銀と電極板に分別し再資源化されています。

セイコーインスツル(株)など事業会社3社は、充電式小型二次電池のリサイクル推進に取り組んでいます。

(株)和光、セイコーウオッチ(株)など事業会社8社は、梱包材料の減量化、分別・リサイクルを促進する商品表示に取り組むほか、排出量に応じ再資源化費用を負担しています。



2011年度 容器包装排出見込量

環境推進体制／節電対策／製品の安心・安全

セイコーホールディングス(株)は、環境を経営の重要課題ととらえ、1998年に「環境方針」、1999年に「環境基本理念」を制定し、各事業会社と協働の取り組み体制を構築し、環境保全の課題解決に向けて組織的に取り組んでいます。

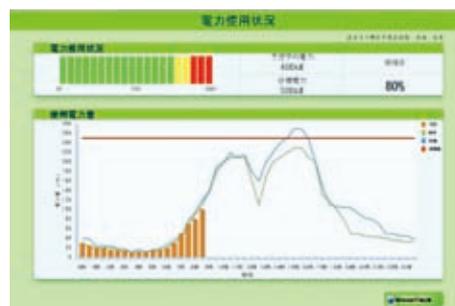
環境推進体制

セイコーホールディングス(株)と各事業会社の環境担当者が全体的な環境活動を連絡・調整する場が「環境連絡会」です。この環境連絡会には、業務推進を行う「環境商品」「梱包・補材」「環境広報」「事業所内環境」「環境会計」の合計5つの分科会・ワーキンググループが設けられ、分科会ごとの活動方針に基づき取り組みを進め、定期的に成果を報告・共有しています。さらに、定期的に、社員を対象にして外部講師を招聘し「環境セミナー」を開催。また、イントラネットにより「環境トピックス」を掲載し、各社で行われている最新の環境活動に関する情報を共有しています。



節電対策

各事業会社は節電対策に取り組んでいます。ライトダウンや既存エネルギー設備の運用改善など省エネを追求し、コージェネレーション(熱電併給)設備の導入やヒートポンプ採用の補助装置による稼働の効率化など活動を推進しています。また、省エネソリューションパッケージ「GreenTALK」と温度、湿度、照度、CO₂、電力量などを測定する無線センサー端末「Mr.匠エネ」を導入し、安価で簡単に「見える化」と「省エネ」を実現しています。



GreenTALKによる電力使用の見える化

製品の安心・安全

各事業会社は、各国の有害物質規制にいち早く対応。その商品仕様を世界標準として自社スタンダードに採用し、他市場にも販売しています。

製造事業会社はグリーン購入基準による調査のほか、製造現場でエスアイアイ・ナノテクノロジー(株)の蛍光X線分析装置により、製品中のカドミウム、鉛、水銀などの有害な物質の測定・分析を実施しています。蛍光X線分析装置は、液化窒素不要、測定時間の大幅短縮化など、装置そのものが環境に配慮されています。

また福島第一原発事故後は、放射線測定装置の販売を手がけるセイコー・イージーアンドジー(株)がゲルマニウム半導体検出器(ゲルマニウム半導体を使った放射線検出器)やサーベイメータ(空間の線量や対象物の表面の線量などを計測するための装置)などの販売サポートに総力を上げ、安心・安全の確保に貢献しています。



蛍光X線分析装置

サーベイメータ



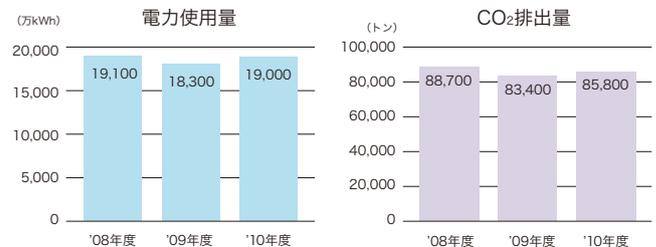
ゲルマニウム半導体検出器

地球温暖化防止／環境会計

セイコーホールディングス(株)および各事業会社は環境会計の導入やCO₂排出量の公表など環境の見える化の推進により環境課題解決の実現をはかっています。

地球温暖化防止

各事業会社は、商品の開発・製造・販売・サービスなどさまざまなプロセスにおいて、地球温暖化ガスの低減に取り組んでいます。



環境会計

セイコーホールディングス(株)と各事業会社は、環境保全活動のコストと効果を連結ベースで集計しています。2010年度の環境保全コストは、設備投資額が255.7百万円、費用額が2,452.5百万円でした。

その結果、事務用紙削減203万枚、廃棄物削減45トン、容器包装削減60トンといった量的な効果のほか、経済的效果として廃棄物リサイクル売却による291.3百万円の実収入や、費用削減・新規材料抑制・環境リスク回避などにより764.7百万円の費用削減を達成できました。

環境保全コスト

分類	主な取り組み	設備投資額(百万円) ^{※1}	費用額(百万円)
1. 事業エリア内コスト			
公害防止コスト	水質、大気、騒音、振動など公害防止に関すること	75.2	635.1
地球環境保全コスト	地球温暖化防止、オゾン層保護などに関すること	173.1	450.6
資源循環コスト	省資源、廃棄物の削減・リサイクル、購入抑制など	6.4	391.5
2. 上・下流コスト	グリーン購入、環境ラベル、リサイクル(電池・容器包装)	0.0	123.1
3. 管理活動コスト	環境教育、環境マネジメントの構築・維持、環境情報の開示	0.0	342.2
4. 社会活動コスト	環境保護団体、地域への支援など	0.0	3.9
5. 研究開発コスト ^{※2}	環境関連研究開発、図書費	1.0	506.1
6. 環境損傷コスト	土壌汚染調査対策	0.0	0.0
合計		255.7	2,452.5

環境保全効果

(1) 量的効果

項目	削減・抑制量
事務用紙削減	203万枚
廃棄物削減	45トン
容器包装削減	60トン
新規材料抑制	551トン

(2) 経済効果

主な取り組み	経済効果(百万円)
実収入効果 廃棄物リサイクル有価売却	291.3
費用削減・抑制・損傷効果 費用削減・新規材料抑制・環境リスク回避など	764.7

※1 設備投資額は環境保全費用の中から減価償却資産のみを記載。

※2 ウォッチ、レンズ・フレームなどの製造を依頼している企業での研究コストは計上していません。

集計範囲: 持株会社1社、事業会社9社

セイコーホールディングス(株)、セイコーウォッチ(株)、セイコーインスツル(株)、セイコープレジジョン(株)、セイコーNPC(株)、セイコークロック(株)、セイコーオプティカルプロダクツ(株)、(株)和光、セイコータイムシステム(株)、セイコースポーツライフ(株)

セイコーウォッチ株式会社
セイコーインスツル株式会社
セイコープレジジョン株式会社
セイコーNPC株式会社
セイコークロック株式会社
セイコーオプティカルプロダクツ株式会社
株式会社 和光
セイコータイムシステム株式会社
セイコースポーツライフ株式会社

セイコーホールディングス株式会社